

児童朝会 校長の話 4月17日

新学期が始まって10日間位たちましたが、どの学年も教室の様子を見ると、一生懸命勉強したり友達と協力して仕事をしたりしていて、頑張っているなと思います。

縁の下の力もち

さて、「縁の下の力もち」という言葉があります。縁の下というのは、床の下のことです。昔の日本の家は床の下と地面の間が空いていて、床の下で家を支えているのが見えました。



今の家は床の下が外から見えませんが、床を張る前はこの写真の様に、木の枠が敷き詰めてあったりコンクリートが流されていたり棒で支えられていたりします。



「縁の下の力もち」というのは、床の下の支えのように、人の目につかない陰で、他の人のために支える苦勞をしたり努力をしたりすることを言います。学校の中で1番の「縁の下の力もち」は6年生だと思います。例えば、4月6日、始業式や入学式がありましたが、6年生はその1日前の5日に登校し、1年生の教室を飾ったり入学式の準備をしたり、学校中を行き来して、2年生から6年生までの教室に机や椅子を運んだりしました。そうやって新学期が始まる準備をしました。これから1年間、6年生はいろいろな行事のため、みなさんのために見えないところで働いてくださいます。よろしくお願ひします。1年生から5年生はそんな6年生の存在を知ってありがたい気持ちをもってください。そして自分が6年生になったときには、皆さんが縁の下の力もちとして学校のために力を発揮してくださいね。